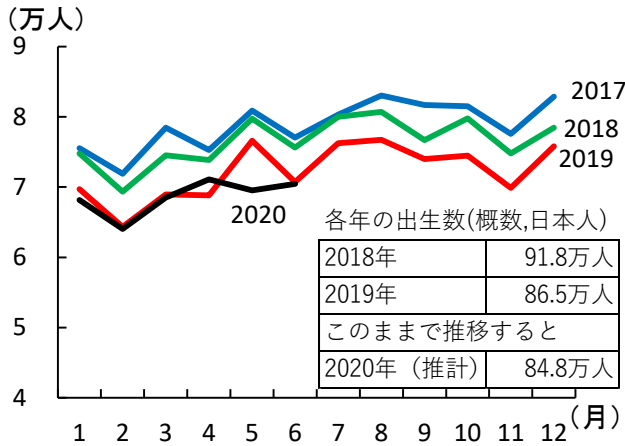


コロナ禍で加速する少子化 ～2021年には出生数が大幅減～

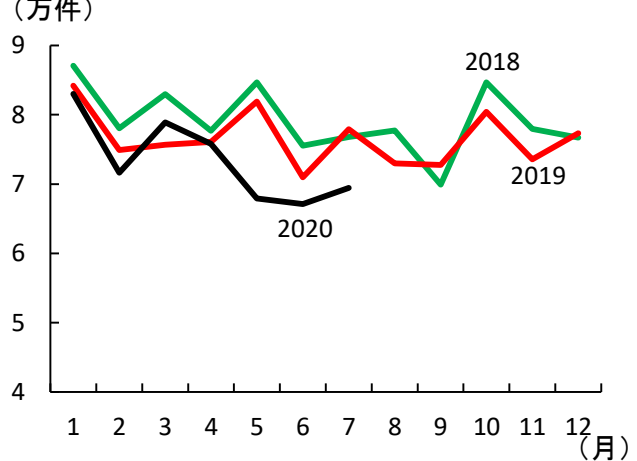
- (1) 2020年の出生数（日本人）は、当社推計に基づく予測では、前年比▲1.9%の84.7万人となる見通し（図表1）。1974年以来続く出生数減少の流れは食い止められてはいないものの、2019年にみられた大幅減少には一旦歯止め。
- (2) しかし、コロナ禍の影響を受け、5～7月の妊娠届け出数は前年比大幅減で推移（図表2）。仮に8月以降も妊娠届け出数が5～7月並みの水準で推移すれば、2020年の妊娠届け出数は前年比▲4.4%となり、2021年の出生数は前年比▲7.5%の78.4万人まで落ち込む見込み。これは、2019年の合計特殊出生率（TFR）1.36が続いた場合の2030年頃の出生数に相当（図表3）。コロナ禍によって、少子化が一般的な想定より一気に10年前倒しで進むことになりかねない状況。
- (3) 加えて、コロナ禍は婚姻数の下振れも招いており、このまま推移すれば2020年の婚姻数は▲16.2%の大幅減となる見込み（図表4）。2021年以降の出生数のさらなる下押し要因に。
- (4) コロナ禍による少子化の加速を防ぐためには、経済支援を含め、若い世代が安心して結婚、出産、子育てができる社会環境を構築することが不可欠。

（図表1）月別、出生数の推移



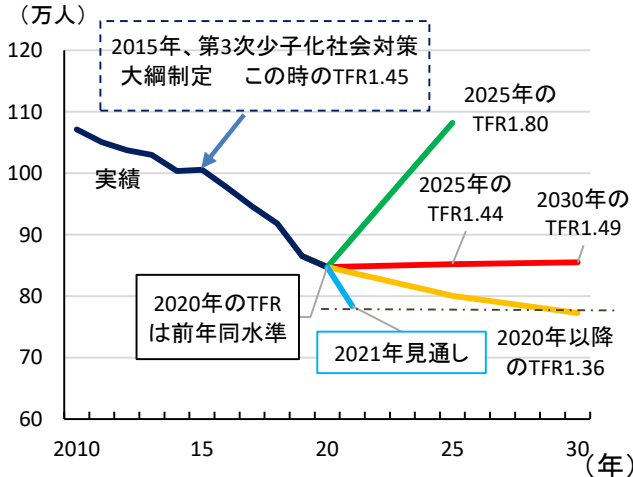
（資料）厚生労働省「人口動態調査」
（注）日本人のみ

（図表2）月別、妊娠届け出数の推移



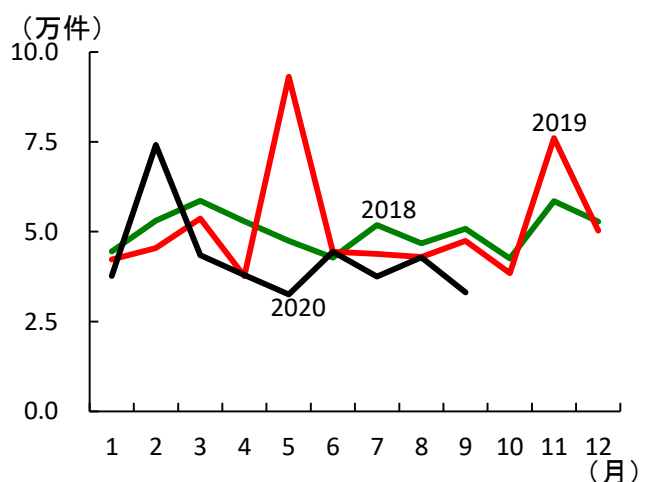
（資料）厚生労働省「令和2年度の妊娠届け出数の状況について」
（注）日本人のみ

（図表3）わが国出生数の将来推計（TFR別）



（資料）厚生労働省「人口動態調査」、社人研「将来人口推計」

（図表4）月別、婚姻数の推移



（資料）厚生労働省「人口動態調査」

【ご照会先】 調査部 席主任 研究員 藤波 匠 (fujinami.takumi@jri.co.jp , 090-8487-7832)